令和8年度・DX（AX）検証成果

AI活用業務改善
ClaudeCode検証成果総括

ＡＸで市役所はどう変わるか

発信　Claude Code検証チーム
日時　令和8年11月19日（木）14時～15時30分
対象　市長・副市長・各部部長・各所属希望者・外部団体・報道機関

AGENDA

本日の進行 —— 14時開始・約90分

令和8年11月19日（木）／ 市長・副市長・各部部長等・各所属希望者・外部団体・報道機関

［位置付け］「AI活用の成果発表会」—— 業務のかたちが変わる事例を共有する場

01	02	03	04	05	06
副市長挨拶	総括説明	個別プレゼン	進行側紹介	市長講評	質疑応答
鹿嶋市副市長 栗林 裕	DX・改革推進室	検証員各課 （6件）	ピックアップ紹介	市長講評 鹿嶋市長 田口伸一	
約 2 分	約 10分	各 5 分～10分程度	5分程度	20分程度	
		発表案件はP12参照	個別発表以外の全体について、総括ダッシュボード説明		

［全体の内訳］冒頭 挨拶2分＋総括10分＋個別プレゼン約45分＋④講評20分＋質疑応答

OUTLINE

Claude Code検証の概要 —— 何のため、誰が、何をしたのか

市長発意の検証 —— 6所属の検証員が約3か月かけて、業務改善の「事例」を48件作りました。

［主目的］ 行政運営を持続可能にする —— 6つの改革軸

1. **リソース改革**— 限られた職員数・予算で持続可能な行政運営を行う
2. **属人業務の削減**— 特定職員に依存する業務の標準化・共有化（属人化防止）
3. **残業・繁忙の軽減**—「仕事が多すぎる・残業ばかりで休みが取れない」状態の改善
4. **住民サービス向上と働きやすさの両立**
5. **内製化**— 外部委託に頼らない、庁内で作れる・直せる体制の確立
6. **人口減少・生産年齢人口減少への対応**— 限られた人員で行政需要を回す

何の検証か

生成AIで
業務改善を作る実証

実際の業務で生成AI（Claude Code）を使い、
効果と課題を**約3か月**で実証。

体制

6所属の検証員 ＋
DX改革推進室が取りまとめ

DX・行革推進室 ／ 政策推進課 ／ 財政課
／ 国保年金課 ／ 総務就学課 ／ 地域ブランド戦略室

成果物

48件

作ったツール・ダッシュボード等
（集計基準日 2026-11-12）

なぜ Claude Code か

「開始時点で価格と性能の掛け合わせが最適」

検証で得た **「作れる」実感 と 手順** が庁内に残ること —— モデルは来年度再評価します。

開催動機

市長からのご要望

取組の**庁内周知** ・ 構築**基盤**（庁内LLM・庁内Web等）の発表

出典：検証案件_全件_2026-11-12.csv ／ 庁内研修資料（主目的キーワード）

OVERVIEW

検証の全体像 —— 48件を6所属で

令和8年度のAI活用検証は、48件の案件を6所属で進めてきました。

検証案件数

48 件

6所属 ／ 集計基準日 2026-11-12

市長発意の検証 —— 約3か月で実証

所属別件数（6所属・参考）	
DX・行革推進室	17件
国保年金課	15件
総務就学課	6件
地域ブランド戦略室	4件
政策推進課	3件
財政課	3件
合計	48件

メッセージ軸

「一部の詳しい人がすごいものを作った」ではなく、**「自分もやってみよう」**と思える材料を10分でこの後発表します。

集計基準日 2026-11-12 ／ 出典：検証案件_全件_2026-11-12.csv（補正後集計値）

PROGRESS

進捗サマリー —— 33件の進捗と平均進捗率

完了 18件 ／ 実施中 9件 ／ 中止 5件 ／ 保留 1件（残り15件は進捗記録中）

全体平均進捗率

66.3%

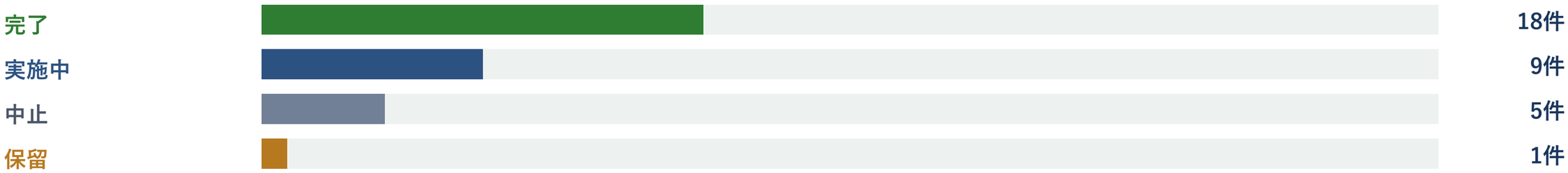
集計基準日 2026-11-12

全48件に対する進捗値の平均

ステータス別件数

完了	実施中	中止	保留
18件	9件	5件	1件

ステータス構成（全48件中・33件の進捗状態）



全48件に対する33件の進捗分布

STOPPED / PENDING

中止5件・保留1件 ——「不採用」の判断材料

作ってみて初めて分かった不適合 —— 検証として有意義な成果です。

「作ってみて初めて分かった不適合」の判定 —— これも検証の成果

実際に着手して初めて、「この業務にはAIが合わない」「運用負荷が上回る」といった不適合が明らかになりました。
次年度の試行テーマ選定の判断材料になります。

具体例

非自発的失業者軽減システム

国保年金課・中止

試作の結果、**窓口対応時間が増える**と判断。
—— AIでカバーできない部分を人が補う形になり、導入効果が運用負荷を下回ると結論。

次に活かす

5つの「不適合」を来年度の試行選定へ

・業務適合性が低い領域の切り捨て
・運用設計を先に固めるべき案件の抽出
・個人情報を含む領域の**基盤整備（庁内LLM・庁内Web）**の優先度を裏付け

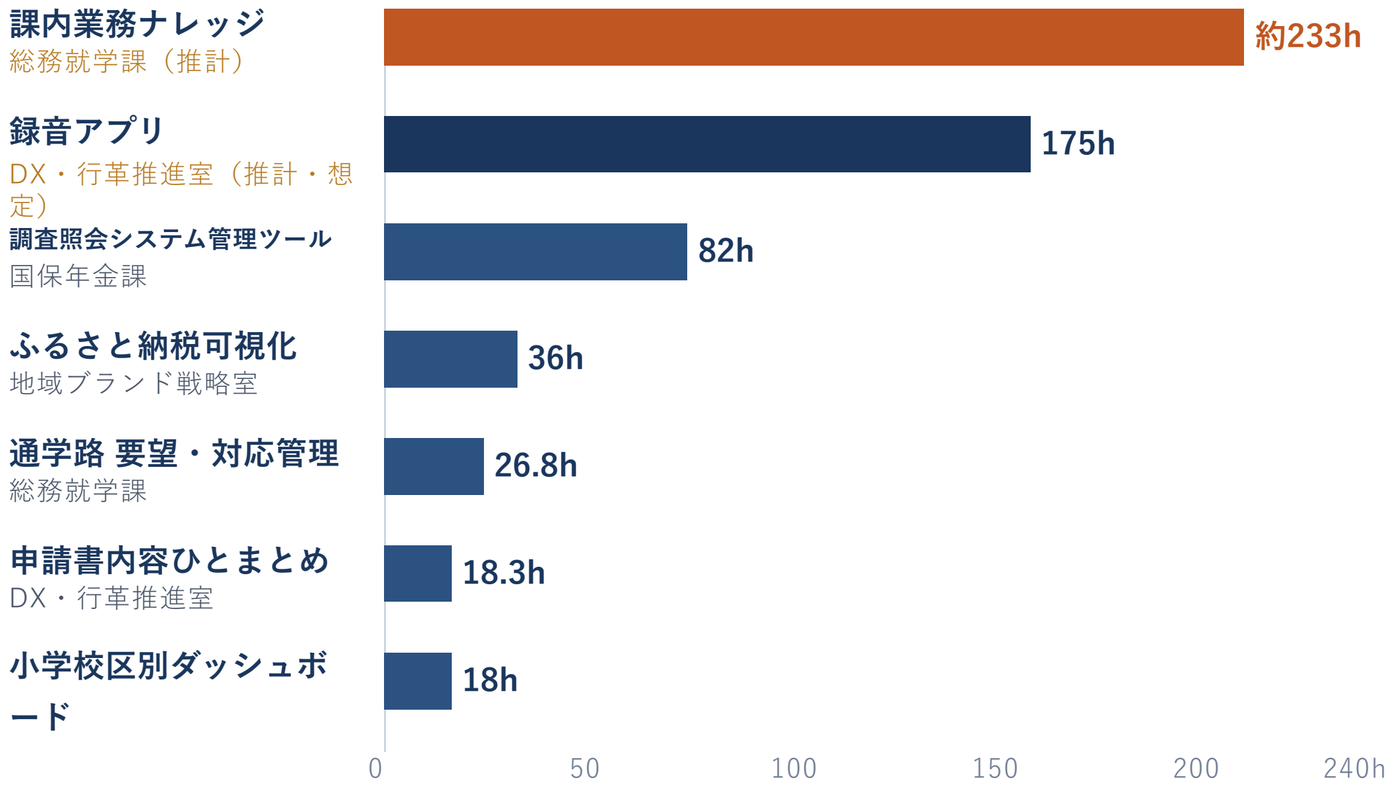
中止5件・保留1件はいずれも、着手後に「不適合」と結論づけたもの —— 試行なしには得られない知見

QUANTITATIVE

定量効果 —— 完了案件から生まれた「時間/年」

単位を 時間/年 に統一 —— 大きい案件から順に掲載。「推計」を含む値は注記付き。

主な案件別の年間時間削減効果（時間/年）



左記抽出分の合計（主要7件）

約589h/年

人件費換算・推計含む —— グラフ表示分の単純合計
○ 全21算定案件の申告値合算では 約1,757時間/年
本グラフは主要7件の抜粋
（上位の e ラーニング等はダッシュボード資料参照）

その他にも重要な成果

案件	効果	備考
文書差分比較ツール	16.7h/年	
ファイル名一括リネーム	13.3h/年	
FAQシステム	約8h/年	推計
PDF一括結合	6.7h/年	
ふるさと納税人気返礼品	7h/回	
ふるさと納税全国取組分析	14h/回	
小学校区別 内製化で	△44.0万円/年	

合計は「推計を含む」単純合算 —— 個別の運用前提・件数を踏まえて読み取ってください。／ 出典：各案件の定量効果欄（補正後）

QUALITATIVE

定性効果 —— 時間だけでは測れない価値

正確性・再現性・説明責任 —— 「市役所としての業務品質」が底上げされた領域です。

文書差分比較ツール

検出精度の均一化
確認証跡の保存

目視照合で起こり得た「気づきの個人差」を解消。照合結果は記録として残る。

アンケート テキストマイニング

定性アンケート結果の活用
AIによる多角的解釈

自由回答を捨てずに分類・可視化。担当者の仮説だけでは見えない傾向を抽出。

通学路 要望・対応管理ツール

危険個所情報の一元管理
対応漏れ防止・属人化防止

担当交代時の引継ぎコストを縮減。「誰が・何を・どこまで」が一覧できる。

小学校区別見える化ダッシュボード

EBPMの実現
算定根拠の明示

データに基づく政策判断を市民に説明できる形に。内製化で外注費も同時に削減。

国保QAツール等（窓口系）

窓口対応の一貫性
担当不在時の対応可能性

回答の揺れを抑え、属人的だったナレッジを共有財産に。

「時間/年」に換算しにくい価値 —— 庁内展開時に職員が得られる体感メリット

ISSUES

主な課題 —— 5テーマから来年度方針へ直結

現場から上がった生の声を5つのテーマに集約 —— それぞれに来年度の対応方針があります。

テーマ	現場の状況	来年度の方針
個人情報の扱い	個人情報を含む業務ほど 生成・活用しづらい	**庁内ローカルLLMの立ち上げ／庁内Webサーバー構築** を来年度予算編成方針へ
運用負荷	FAQ管理ツール・eラーニング 毎年度の再構築が必要	**持続可能な運用**の仕組み —— 管理者の権限・更新サイクル設計
外部規制	ふるさと納税ポータル AI自動読み込み規制が強化	規制動向を踏まえた**読み取り手法・手作業フォールバック**の検討
実データ検証の残り	総合戦略モニター／国保EUC ナレッジの正確性担保 等	性能検証・AI回答の正確性確認 —— **導入前チェックリスト**の整備
共有・ガバナンス	庁内展開ルール未整備 管理主体・安全性確認 等	**AIガイドライン第2版**への置き換え —— 管理ルート（安全性確認）の整備

出典：案件ごとの「今後の課題」欄を集約

NEXT FISCAL

今後の展開 —— 使い手を増やす基盤整備

報告会で終わらせない —— 来年度の予算編成方針に5つの柱を盛込みます。

01

各部へClaudeライセンス配布

まずは各部単位で
「触れる環境」を広げる

［将来的には］
各課・各職員へ

02

共用端末各部2台程度配備

PCが手元になくても
すぐ試せる入口を置く

［まずは］
試行的な配備から
利用実態を見て拡大判断

03

庁内ローカルLLMの立ち上げ

個人情報・庁内データを
外に出さずにAI活用する基盤

［来年度］
予算編成方針に計上し
モデル選定・運用設計

04

庁内Webサーバー構築

HTTPリンクでアプリを配布
— インストール協議なしで
展開

［来年度］
個人情報・庁内完結の
配信用インフラを整備

05

AIガイドライン第2版＋管理ルート

作った物の管理主体・
安全性確認のルート整備

［継続テーマ］
庁内展開ルール
ガイドラインが次の柱

「作れる」前提 —— 職員が自分の業務で試せる環境を広げるのが来年度の最優先テーマ

自分も、やってみよう。

AI活用は、一部の詳しい人の仕事ではなく、
あなたの業務のかたちを変える道具です。

01

小さく試す

1件・30分の検証から始めても、
知見は庁内に残る。

02

合わない案件も成果

中止・保留も「不採用の判断材料」。
次の試行に必ず活きる。

03

来年度は広げる

ライセンス・共用端末・庁内LLM・
ガイドライン第2版で全員が触れる前提へ。

INDIVIDUAL PRESENTATIONS

個別発表 —— 検証員が作った「使えるもの」

発表順 ／ 各 5 分・実演付き —— 6件を一望できる一覧

順	テーマ	所属	発表者
1	**アンケート結果のテキストマイニング** 自由回答のインサイト抽出・分析5h→1h	財政課	**課長 茂垣 諭**
2	**総合戦略モニター** 市長面談資料の一元管理・自動化	政策推進課	**課長 藤松 研**
3	**通学路 要望・対応管理ツール** 危険箇所の一元管理・資料作成26.8h/年削減	総務就学課	**係長 山中 憲司**
4	**ふるさと納税トレンドウォッチ分析** 週次データ蓄積・人気返礼品分析	地域ブランド戦略室	**課長 野口 真良**
5	**国保税試算ツール** 市民向けHP公開を最終目的	国保年金課	**係長 田中 雄輝**
6	**空き家管理システム** 導入予定システムの代替品を内製で構築	DX・行革推進室	**主事 石田 涼**